

明石公園の豊かな自然を再生するために 明石公園の未来を考える集い トークセッションで語り合おう

明石公園の豊かな自然環境を生み出す「豊かな樹木」群が無残に伐採され、あらためて「明石公園のかけがえのない自然」に注目が集まりました。昨年11月から立ち上がった多くの市民の運動の結果、今年初めから伐採が止まり、4月初めには斎藤知事が現地視察の後「今年度の伐採を中断」し、自然環境保全のあり方も含めた「県立公園のあり方検討会」が発足することになりました。

明石市も「明石公園に関するプロジェクトチーム」を立ち上げて、市民参画のもとで公園のあり方を見直していくことになりました。

2022年 **7月18日** (月・祝日) | **13:30-16:30**

会場 | アスパア明石北館7階 ウイズあかし704 (明石駅前広場から東すぐ)
主催 | 明石公園の自然を次世代につなぐ会 後援: 明石市

定員 **100名**
参加無料
事前申込不要

このように、事態が急激に動き出したきっかけには、4月3日開催した「明石公園の未来を考えるシンポジウム」の熱気も影響しています。シンポジウムには170人を超える市民の参加を得て、明石公園のかけがえのない価値とは何かを議論し、次世代につないでいくためのヒントもたくさん見出しました。

今回は、シンポジウム以降の動きを共有するとともに、兵庫県の「あり方検討会」へ向けて市民の声を発信していく場にしたいと考えています。

明石公園が持っている「豊かな自然環境」とともに、「史跡・明石城跡の歴史遺産」「県内有数の運動公園」として親しまれている明石公園の「3つの側面」をどう理解していくのか？ 兵庫県が打ち出している「パークマネジメント」と称する民間の手を入れた公園整備計画は、何をもちろすのか？ 自然環境をどう再生していくのか？—などについて市民の皆さんが率直に語り合う機会にします。

連絡先 | TEL: 080-3860-1487 (丸谷) FAX: 078-914-8039
E-mail: info@akashikoen-mirai.org URL: <https://akashikoen-mirai.org>



▲170人超の熱気に包まれたシンポジウム会場



▲無惨！ まるで「切り株公園」



▲明石公園の自然の価値を高校生も発表

県の「あり方検討会」の課題と焦点は？

市民の「参画と協働」の県政が試される

兵庫県が4月4日、斎藤知事が現地視察後に明石公園の現場で表明した「公園のあり方検討会」設置と、年度内の伐採計画の中止。公園計画に初めて「自然環境保全のあり方」の検討を盛り込んだものだが、5月設置、8月中間報告としたものの6月中旬現在まだ発足していない。

問題は、県の公園管理のあり方に異議を申し立てた市民の代表が、検討会メンバーにどう位置付けられるかだ。

検討会は明石公園と播磨中央公園、赤穂公園の3つを対象とし、それぞれの公園について部会を設けて「地域住民や自治体、有識者等の幅広い意見を反映する」としているが、聴き置くだけの参画ではなく、実質的な参画の検討会が試される。



明石公園の樹木過剰伐採問題の足どり

2018年 「明石城築城400周年」（2019年）に向けて石垣周辺の伐採計画

2021年 4年間で1687本の樹木伐採。切り株だらけの公園に驚愕

- ・11/2 明石公園の自然を次世代につなぐ会（つなぐ会）が発足
- ・11/18 つなぐ会が県知事へ樹木伐採の即時中止を求める要望書提出
- ・12/8 明石市議会で丸谷聡子議員が樹木伐採とりノベ計画を質問

2022年

- ・1/22 市民自治あかしの市民まちづくり講座が取り上げ、訴え「明石公園でいま、何が起きているのか!」
- ・1/22 講座後、参加メンバーで「つなぐ会」の組織拡大を協議
- ・1/29 明石市長へ要望書（つなぐ会、明石公園の緑を考える会）
- ・1/31 伐採中止を求めるオンライン署名スタート
- ・2/2 県公園緑地課長らに面会し状況の説明を求める。県議にも要請
- ・2/5 明石公園の緑を考える会が緊急オンラインフォーラム、市長も出演
- ・2/7 陸上競技場周りの伐採予定樹木3本の現地調査
- ・2/21 つなぐ会ホームページ公開開始
- ・2/22 県庁に要望書と電子署名2万857人分を提出、市長も同行
県議会全6会派と無所属議員3名に要望書と協力要請
- ・2/27 地球守の高田宏臣代表らが石垣と樹木について現地調査（市長らも同行）
- ・3/1 県議会本会議で北口寛人議員が質問
- ・3/3 明石市議会本会議で丸谷議員が再び質問
- ・3/6 石垣のライトアップ開始
- ・3/21、24 明石駅前広場でシンポジウムの案内チラシ配り訴え
- ・4/3 明石公園の未来を考えるシンポジウムに170人超
- ・4/4 斎藤知事が明石公園現地視察し、年度内の樹木伐採中断表明
「県立都市公園のあり方検討会」設置も表明
- ・4/8 丸尾牧県議が地球守の高田氏報告書をもとに意見書を県に提出
- ・4/11 知事と市長の懇談実現し、今年度の伐採中止を確認
- ・4/15 県緑地公園課長らと面会し「あり方検討会」への市民参画要請
- ・4/17 くまもりカフェin赤穂で、明石公園の樹木伐採を報告
- ・5/26～30 県や市等へ要請行動を続ける

伐採木の年輪調査を実施

樹齢百年以上の木が6株も

明石公園の自然を次世代につなぐ会は、伐採木の実態を明らかにするために、伐採された木の年輪調査を行ない、これまでに16樹種、計55株（2021年の伐採木およそ500本の1割余り）の年輪を調べた。

県立人と自然の博物館の専門家から測定法の指導を受けたあと、その方法でつなぐ会のメンバー2名が測定を行なった（右写真）。多かったのはアベマキの17株、シラカシ、モチノキ、ムクノキが各3株であった。樹齢の最大はウバメガシ（147年）、100年以上が6株もあり、根周り3m超のものも5株あった。

